

I 世界の創造を悟る信仰。

「信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、その結果、見えるものが、目に見えるものからできたのではないことを悟ります」：3。

1. 「信仰によって」が、この章に18回出て来る。信仰の大切さが強調されている。

「信仰による救い」が聖書の中心であるが、「救い」の前に「創造」があるので、著者は、まず、神による世界の創造を記す。私達の神は、素晴らしい「創造主」であり、「救い主」である。

2. また、3節は、1節の信仰が「目に見えないものを確信させるもの」という事実の大切な事として記されている。創世記1章を読むと、世界の被造物の一つ一つを「光、あれ」、「なれ」「集まれ」「芽ばえさせよ」等、すべて神の「ことば」で創造された。

神の「みことば」、今は、聖書のことばに、偉大な力がある！

見える世界が、目に見えない神のみことばで造られた事を悟る。

3. ある人は言う。天地創造の場面を目で見たわけではないのに信じる事は非科学的だと。

しかし、そうではない。神による創造と対比される進化論も、実は誰も生物が進化した場面を見てはいない。

※世界中の動物園の猿は、ずっと猿のままで、人間に進化はしていない。

逆に科学的実験により、一つの種から別の種へは進化は出来ない事が証明されている。

誠実な科学者達は、今の中学、高校の教科書に出る進化説は矛盾していると気づいている。そして、多くの科学者が創世記の神の創造を信じ、クリスチャンになっている。

天体の精密な動き、人体の驚くべき機能、精密さは、かえって偉大な造り主がおられる証拠である。

真の信仰と真の科学は矛盾しない。

有名な科学者ニュートン、パスカルもクリスチャンである。彼らは、天地創造の神を信じる敬虔なクリスチャンで、秩序のある神が、天と地を創造されたのだから、天と地には法則があるはずだという動機で法則を発見した。

II 真実なささげ物をする信仰。

4節を読もう。

1. アダムとエバの子であるカイン（兄）とアベル（弟）は、同じ時期に神に奉げ物をした（創世記4：2～）。

農夫のカインは、地の作物を奉げ、羊飼いのアベルは羊の初子を奉げた。神は、弟アベルとその奉げ物に目を留められたが、カインとその奉げ物は、顧みられなかった。

2. それはなぜか？創世記4：4に、そのヒントがある→「彼の羊の初子の中から、それも最上のものを持って来た」。つまり、作物か羊かではなく、奉げる心の違いがあった。

弟アベルは①心を込め②自発的に③心から主の恵みを感謝して④余り物ではなく、最上のものを奉げた。

主は、その心からの奉げ物を喜ばれた。

3. このような良き奉げ物ができたのは、アベルに主への真実な「信仰」があったからである。

4. 神は、私達の心を見て下さる。私達もささげ物をする時、先行する神の溢れる恵みに感謝して、

「いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで（神の恵みに心から感謝して）与える人を愛してくださいます」（Ⅱコリント9：7）。

私達は、自分の力で得たものはない。まず神が、私達に、命、働く能力、働く場所（世界）を与えて下さった。それに加え、もっと素晴らしい恵み＝赦し、新しい命、愛、喜び、平安、励まし、慰め、判断力、知恵を与えておられる。あふれる恵みを数え、心から感謝してささげたい。

Ⅲ 神に喜ばれる信仰

1. 「信仰によって、エノクは死を見ることがないように移されました。神が彼を移されたので、いなくなりました。彼が神に喜ばれていたことは、移される前から証しされていたのです」：5。

彼が神に喜ばれていた事のヒントが創世記5：22にあります→「エノクは…神とともに歩み」。

神は、私達が、神を信じ、信頼し、神と親しく交わり、神と共に歩む事を最も喜ばれます。

神も、いつも私達と共にいて下さる。

教会でも家庭でも職場、学校でも主は共におられる！試練の中でも！

2. 「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです」：6。

「神に近づく信仰」＝神を求めて良く聖書を読み、神を礼拝し神に近づくために教会に行く。

主が十字架で死なれ、私達の罪の償いを完成されたので、誰でも神を求め神に近づくことができる。神は、私達が神に近づく事を喜ばれる。神は、私達との交わりを最も喜ばれる。

3. 「神がおられることを」信じる信仰。：6。

信仰と気分、感情は違う。神がおられる気分がする時だけ、神がおられるのではない。神がおられるという気分がしなくても、聖書が語る通り、事実として神は、存在しておられる。

神がおられる事が分からない時、どうしたら良いか→「あなたが本当におられる事を私にも分かるようにして下さい」と正直に祈る事である。そう祈りながら聖書を読む。

①感情、気分→②信仰→③事実の順ではなく、

①事実＝神は確かにおられる→②信仰（そうだと信じる）→③感情、実感（神は本当におられる）が与えられて行く。

4. 「神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを」信じる信仰。：6。

①神がおられると信じた次には、神との人格的な交わりが生まれる。私達人間も、ただ親が、いてくれると分かって、その親と会話をしたり、何かを求めなければ、そこに、人格的なふれあいはない。

②神は、何と、私達が、神を、そして恵みを求めることを喜んで下さる。そして、決して裏切ることなく、その求め、祈りに報い、答えて下さる。もちろん、私達の思い通りの答えではないかもしれない。しかし、神は、最善の方法で確実に答えて下さる。

「主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。

『わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。

一主のことは一天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い』イザヤ55：7－9

- ③私たち弱い者にとって失望させられる事や困難な事は山ほどある。

しかし、そんな時、弱く欠点だらけの自分だけを見つめず、信仰の目で、主ご自身をしっかりと見つめよう。

そして、どんな時も、信仰をもって神を信頼して、神に祈り求めよう！

神は、私達の祈りを聞いて下さっている。

そして、私達の思いと違う神の方法で報い、答えて下さる！